

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070001260
法人名	社会福祉法人 若杉会
事業所名	グループホーム浜の宮
所在地	福岡県築上郡築上町大字高塚763番地の3 (電話) 0930-56-0577

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	H21年 8月 6日	評価確定日	H21年 9月 14日

【情報提供票より】 (平成21年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 10月 1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	15 人	常勤	13人	非常勤	2人	常勤換算	14.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	1,200 円	
敷金	有() 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成21年7月15日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上田医院・新行橋病院・有本歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、自然公園や天満宮、桜土手に程近く、催し物やスポーツ観戦ができる場所に位置している。建物は木造平屋建てで、木材のよさをいたるところに活かし、癒しと安らぎが感じられる。室内は断熱・遮音性に優れたペアガラスや24時間換気システムを取り入れ清潔で、快適に過ごせるよう配慮している。利用者はそれぞれの役割を持ち、明るくいきいきと過ごしている。管理者は年間計画を立て、職員の教育に力を注ぎ、サービスの質の向上に努めている。また、事業所は地域の一員として積極的に地域活動へ参加し、住民との交流に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はないが、よりよい事業所を目指し、自分たちで課題を見出して改善計画を立て、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、ユニット毎に職員会議で意見を集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果報告等、事業所の状況報告をしている。また、ボランティアを受け入れる等、委員から意見を聴取し、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置している。年2回の家族会及び来訪時に意見を聴取するよう声かけに努め、出された意見はその都度運営に反映させている。また、事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。地域の清掃活動や文化祭に参加し、近隣の保育園、小学校と交流がある。中学校の職場体験や月1回ボランティアを受け入れる等、地域と積極的に交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「地域の中で」と地域密着型サービスの視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は朝礼時や週1回のミーティング時に理念について話し、日々の業務の中で言葉かけや接し方等お互いに注意し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域の清掃活動や文化祭に参加し、近隣の保育園、小学校と交流がある。中学校の職場体験や月1回ボランティアを受け入れる等、地域と積極的に交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での改善課題はないが、よりよい事業所を目指し、自分たちで課題を見出して改善計画を立て、具体的な改善に取り組んでいる。自己評価は全職員で取り組み、ユニット毎に職員会議で意見を集約している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果報告等、事業所の状況報告をしている。また、ボランティアを受け入れる等、委員から意見を聴取し、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>3ヶ月に1回発行している地域向けの事業所便りを持参し、事業所の実情を報告している。不明な点等は電話で相談し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者や職員は、制度について内部・外部研修及び伝達研修で周知徹底し、必要に応じて活用できるよう支援している。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書等がある。利用者・家族には、制度について必要時及び家族会で説明している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族来訪時及び月1回発行する事業所便りの「お便りコーナー」欄にて、職員が家族へ利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。緊急時には電話で状況を報告している。金銭管理については、郵送やメールで定期的に報告している。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している。年2回の家族会及び来訪時に意見を聴取するよう声かけに努め、出された意見はその都度運営に反映させている。また、事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動を最小限に抑えるため、管理者は必要に応じて職員面談の機会を設けている。やむを得ず職員が離職する場合は、引き継ぎの期間を十分に設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。職員・パートと区別なく、安心して働ける環境づくりに配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は人権教育の重要性を認識し、内部研修を行っている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告等がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は年間研修計画を立て、段階に応じて研修を受ける機会を確保できるよう努めている。研修のテキスト・パンフレット・研修記録・報告等がある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者ネットワークに加入している。月1回の研究会に管理者や職員が参加し、サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に見学や自宅訪問、病院訪問等を行い、家族と相談しながら、利用者の状況に応じて徐々に馴染めるよう工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から労わりの声かけや悩みを聞いてもらうことがある。また梅干しやらっきょうの漬け方等、職員が知らない生活の技を利用者から教えてもらう場面があり、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で利用者に声かけし、希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は行動を観察して、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの課題に沿って家族、職員の意見を反映した個別具体的な介護計画を作成している。本人・家族へ説明し、同意の署名、押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、6ヶ月に1回、又は利用者の状態変化に応じて見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は医療機関へ情報提供し、家族と連携を図りながら利用者の状態把握に努め、早期退院へ向けて取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に受診や連絡方法、緊急時の医療について話し合っている。本人や家族等の状況に応じて、通院や送迎は柔軟に対応している。訪問診療があり、往診や夜間の急変時に適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について方針がある。利用開始時及びその都度、家族、かかりつけ医、職員等と話し合い、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報やプライバシーに関する内部研修等を通じ、職員の意識向上を図っている。プライバシーの確保について、日常的に職員間で注意し合っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、食事や入浴時間、買い物、散歩等、利用者の希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。職員は見守りや介助をしながら、同一テーブルで利用者と同じものを楽しく食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の希望等にあわせて、入浴を支援している。入浴を拒否する利用者には、言葉かけや誘導のタイミングを計りながら入浴を楽しめるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は利用者の生活歴や趣味等を活かして、食事の準備や洗濯物干しやたたみ、掃除、草取り等、力が発揮できる場面を支援し、感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、貼り絵や園芸等、楽しみごとを支援している。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の状況や希望また天候等に配慮して、散歩や買い物、ドライブ、外食等、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>居室や玄関は施錠していない。職員は玄関のセンサーやチャイムに頼らず、外出傾向のある利用者を把握して、見守りを行っている。地域住民に見守りや声かけをお願いする等、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを作成している。年に数回、消防署及び地域住民の参加協力による避難訓練を行っている。非常用食料、飲料水を準備している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は利用者の嗜好や状態を考慮して作成し、年4回、栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに植物や活け花があり、ソファや広い畳台が配置され、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。天窓を設置して自然採光を取り入れている。利用者にとって不快にならないよう、職員の声の大きさやテレビの音量に配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの家具や小物等が持ち込まれ、写真が飾られている。家族の宿泊が可能で、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。